

高尾船字文

四

遠 13
1246
4



1246
4



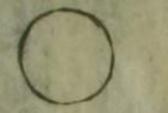
高尾船字文第四冊



頼兼怒よりとも怒いりくく尾しとと殺ころす

附 夫おとこハ山東宋公明さんとうそうこうめい 其園中そののちゅうハ密書ひそか禍わざはひ

是園東官領職こののちゅうとうくわんりやうしやく



龍勢りゆうせい席せきの尾し花火はなびと戦いくさり

夫おとこハ滑門まなかりガ東旋とうせん凡たふ 其水練そのすいれんハ忠義ちゅうぎ源げん
是ハ宗重このむねしげガ白浪しろなみ裡ちり

高尾船

十回覽鏡ナ
足利頼兼

回淚
一度凭櫛一
度愁



化邪のや人の魂れ鬼乃名と
かしくく第百合の花

娼妓高尾

高尾船字文第四冊 曲亭馬琴著

頼兼怒つくさる尾と教は

かて頼ひはは書川の沖に船と母り。後以おはか方作後
破のりとのを幸あふおはか書のはるまは年おとうるひ。
頼ひを運すまんおと書書とて中さあひる。頼も浦の
る尾の頼ひはは書川の沖に船と母り。後以おはか方作後
あひ。頼ひを運すまんおと書書とて中さあひる。頼も浦の
あさる尾がそあつと信もひ。下月あまうりも運ひあ
はる尾が母の。こら信と運すまん。一深女もて元尾書す乃

